クロスロード新聞

第29号

2010年11月5日

遅くなりました！！！
（ごめんなさい）
クロスロードのつどい報告

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

クロスロードのつどい（ゆっくり）速報！

諸般の事情により、新聞発刊が遅れに遅れ、申しわけありません。今号は、クロスロードのつどい in 神戸の（ゆっくり）速報、クロスロード沖縄進出報告、そして火山編、環境編をご紹介します。

クロスロードのつどいで配られた神戸クロスロード研究会の文集も臨時増刊としてまもなくお届けの予定です。お楽しみに！

大会の様子はこんな感じ！

大会は、次のようなプログラムで行われました。

１３：００　開場
１３：３０　開会　あいさつ
１３：３５～１３：５０　京都大学　矢守 克也・慶應義塾大学　吉川 肇子の報告
１３：５０～１４：４０　事例発表等
「クロスロード学生生活編」　島根大学　家島 明彦さん
「クロスロードを核とした釜石市での取り組み」
岩手県立大学　後藤 万里奈さん・井上 かほりさん・伊藤 英之さん
「クロスロード水害編など」　呉市消防局　林 国夫さん
１４：４０～１４：４５　休憩
１４：４５～１５：３０　講演
「阪神・淡路大震災における教訓」
神戸市防災安全公社理事長・元神戸市危機管理監　長手 務さん
１５：３０～１５：４０　休憩
１５：４０～１７：１０　クロスロード体験　　※１班５名、１問12分
「祝・神戸クロスロード研究会５周年記念　クロスロードだよ、全員集合！」
クロスロードの設問を参加者で体験
【設問＆ファシリテータ案】　※順番・ファシリテーターは予定。
(1) 防災(ファシリテータ：柿本さん)
(2) 環境(ファシリテータ：浜さん)
(3) まちづくり(ファシリテータ：西さん)
(4) 子育て(ファシリテータ：玉井さん)
(5) 子ども編(ファシリテータ：ＮＶＮＡＤ高野さん)
(6) ケースワーカー(ファシリテータ：桑原さん)
(7) 防災その他
１７：１０～１７：３０　ふりかえり(意見交換)

そして、なんと！7月25日の神戸新聞に大会の様子が掲載されました！「災害シミュレーションゲーム　神戸で初の全国大会」という記事です。事務局に現物がありますので、ご覧になりたい方は是非どうぞ！

翌26日は新長田へのエクスカーション。当時の様子を写真で見せて頂きながら、15年経っての復興の様子と対比させて見ることができました。そして長田のお好み焼きも参加者のみなさんには思い出深い味であったと思います。

目次

神戸のつどい ゆっくり速報　1
当日スナップ写真　2
クロスロード 全国制覇！　3
ファシリテータ 進級認定　3
クロスロード 有珠山編　4
学生生活編　5
２R編　5
神戸エコレンジャー問題　6
環境配慮と防災　7
土砂災害編　8
こんなところに心理学(29)　8

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2009．11．14．

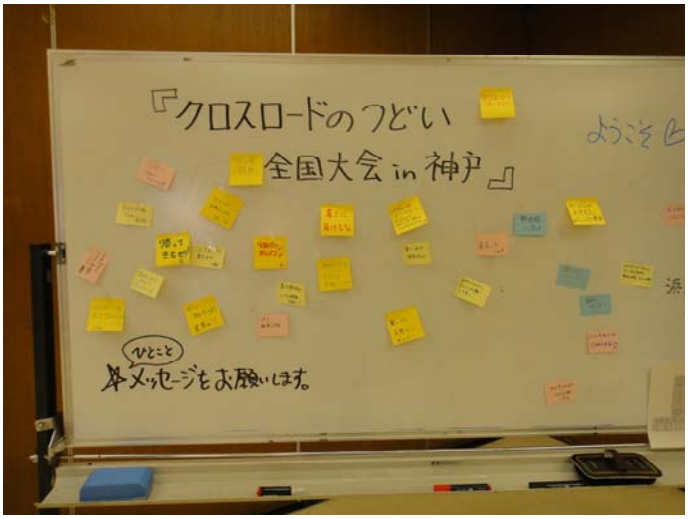
臨時増刊号は
神戸つどい文集！

責任編集
- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
高知県地震・防災課
小溝智子（漫画企画）

つどい　in 神戸　当日の様子を写真で

まずはなんと言っても新長田名物、鉄人28号

当日の様子を写真のスナップでご覧下さい。神戸でおなじみクロスロード研究会特製の瓦せんべい、止まらない夜の大宴会も参加者の方にはよい思い出となりました。



参加者は、受付の後、メッセージをポストイットで書きました

講演の長手務さんのお話には質問が止まりませんでした

司会は、おなじみ柿本さん

翌日は、当時の様子を写真とともに伺いました

恐るべし長田のみなさん、特製瓦せんべいも！　→

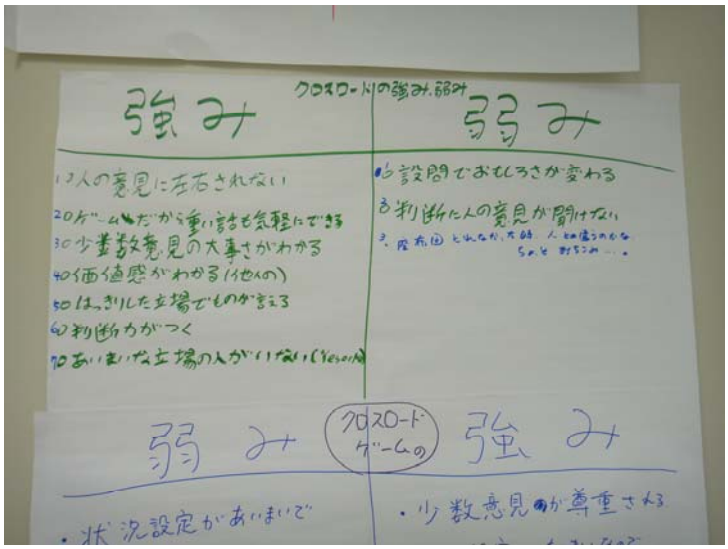
クロスロード全国制覇！

全国から実施報告をいただいているクロスロードですが、実は今まで一度も実施報告をいただいていない県がありました。それが沖縄です。その沖縄で9月10日・11日と、神戸クロスロード研究会の西　修（にし　おさむ）さんのファシリテーションでクロスロードが実施されました。クロスロードもこれで念願だった全国制覇を果たすことができました！

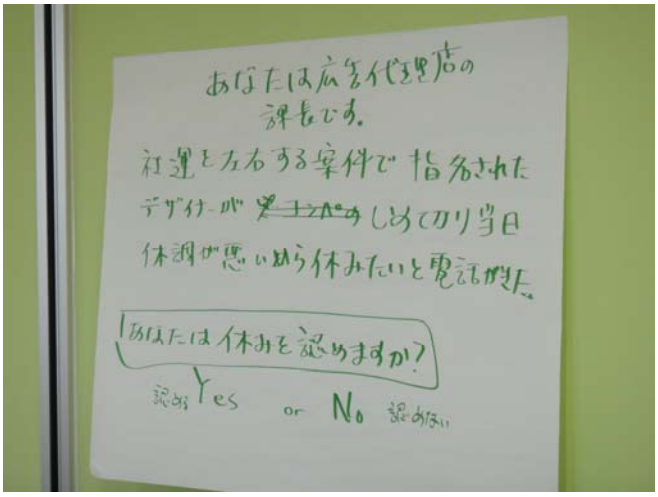
10日は、那覇市社会福祉協議会での実施、11日は日本ファシリテーション協会沖縄サロンでの実施です。その模様を写真でご覧に入れましょう。

おなじみ西さんファシリテートat 那覇社協

意見分布 at 那覇社協：結構わかれるものですね



ファシリテーション協会では強みと弱みの分析：鋭い！



これが楽しい問題作り。プロのみなさんの作問はさすが　at　沖縄サロン

ファシリテータ進級認定！

以下の方を**中級**に認定いたしました。(敬称略)

神奈川県救護赤十字奉仕団横浜分隊　木村美栄子
京都府保健環境研究所　大藤　升美

【応募先】108-8345
港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：03-5427-1251　ファックス：03-5427-1578
メール：kiikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

クロスロード有珠山編

秋田大学教育文化学部、林信太郎先生の研究室で、クロスロードを素材に卒業研究をされていた齋藤茜さんと畠山沙織さんから、「クロスロード有珠山編」をお送りいただきました。問題を一部ご紹介します。

お二人は、2000年の有珠山噴火の教訓を残したいと、地元の方にヒヤリングをされて、10問の問題にまとめられました(写真1，写真2も参照)。問題の例を5頁(右)に掲載しました。

また、完成されたクロスロード有珠山編を使って、大学で実施されたときの様子も写真で頂きましたので、ご紹介します(写真3)。

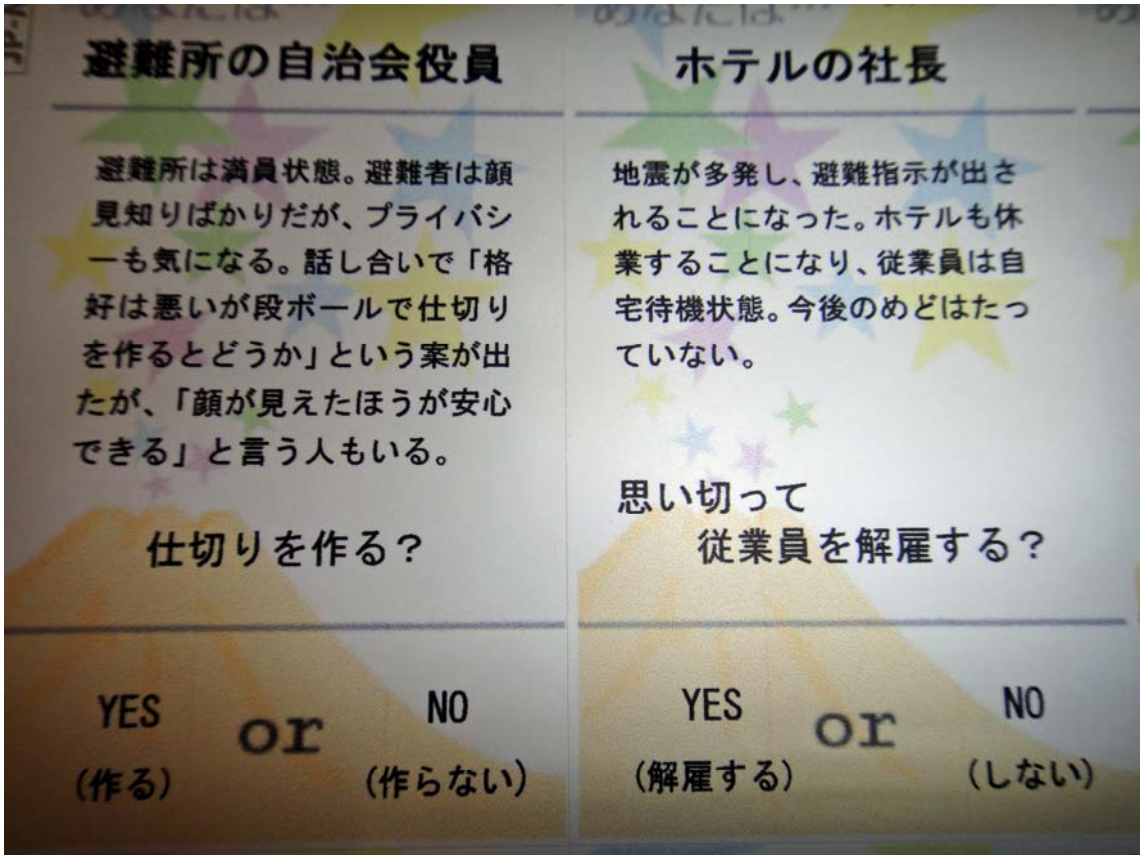


写真1　問題カード(背景の火山のイラストにもこだわりが)

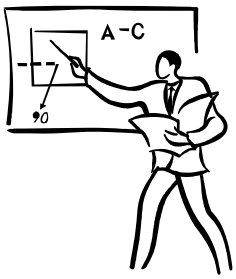
写真2　Yes,Noカードもかわいいデザイン

写真3　秋田大学での実施の様子(ふりかえり)

大学の教育改革・FDにもクロスロード！
～クロスロード大学教育シリーズ第一弾「学生生活編」～

現在，大学教育の世界ではFD（エフディー）と呼ばれる活動が盛んですが，この分野においてもクロスロードが注目されつつあります。FDとは，ファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development）の略で，簡単に言ってしまえば，教員（組織）の教育力向上による授業改善や教育改革を目的とする活動です。フロッピーディスクのことではありません（笑）少子化で誰でも大学に入れる時代になり，大学は多様化した大学生に合わせて教育力の改善・向上を求められています。というわけで，クロスロードが有効な教育ツールとして，また，教職員・学生の研修ツールとして効果を発揮するのではないかと期待されているのです。

今回は，クロスロード大学教育シリーズの第一弾として，島根大学教育開発センターが学生とともに作成した「学生生活編」を紹介します。「学生生活編」は，大学生が先見の明と判断力を養い，学生生活を設計（デザイン）・管理（マネジメント）する力を鍛えるための研修ツールとして開発されました。現代大学生が学生生活において直面し得る葛藤・困難から問題カードが作られています。例えば，「高校まで続けてきた部活を大学でも続けるか否か」，「先輩に頼まれた代返を引き受けるか否か」，「長年の夢と目前の就職，どちらをとるか」など，合計10問です。カードが大きめになっていたり，問題カードの背景色がグラデーション（新入生から４回生になるにしたがってフレッシュな暖色系のピンクから落ち着いた寒色系のブルーになっていく配色）になっていたり，カードデザインにも工夫が施されています。授業や学生研修に是非ご活用ください！



※詳しくはhttp://cerd.shimane-u.ac.jp/fd/proj1/crossroad/（島根大学教育開発センターのウェブサイト／「クロスロード　学生生活編」で検索すれば出てきます）をご参照ください。全問題と学生の回答結果が載っています。

※現在「新任教員編」を作成中！2011年3月に京都大学で開催される第17回大学教育研究フォーラムでお披露目予定です。乞うご期待！

(島根大学教育開発センター　家島明彦　先生)

豆知識：２Rとは、リデュース（reduce:減らす)、リユース(reuse:再利用）の2つの頭文字をとった環境活動です

2種類ある！環境編はこんな感じ

クロスロードに環境編が2種類登場しました！1つは、愛知教育大学の研究成果として作られたもの　（2R編)、もう1つは、神戸クロスロード研究会のメンバー、浜尚美さんが中心となって作られている「エコレンジャー」活動で作られたものです。問題の一部を以下にご紹介します。まずは愛知教育大編から。

環境編はお問い合わせも多く、今後進展が予想される分野ですので、新聞でもどんどん紹介していく予定です。

作成者	あなたは・・・・・	基本設定	YES	NO
愛知教育大学	スーパーの客	スーパーで食べ物を買うとき、手前の消費期限の近いものを買ったほうが廃棄処分の食品は減りますが、棚の奥にある食品の方が日持ちがします。あなたは手前のものを買いますか？	手前のもの	棚の奥
愛知教育大学	スーパーの客	お肉が欲しいと思っています。環境のことを考えると、パックではないもの（必要な分だけ量ってもらうもの）を買うべきですが、同じ量なのに、パックの方が安くなっています。あなたはパックのものを買いますか？	パック	パックでないもの
愛知教育大学	スーパーの客	環境のことを考えると、レジ袋はもらわず自分で袋を持っていくべきですが、レジ袋は無料であり、ゴミ袋にもなり便利です。あなたはレジ袋をもらいますか？	もらう	もらわない

神戸エコレンジャー問題

【Ⅰ　低炭素社会】

番号	項目	あたなは‥	設問	YES	NO
Ⅰ 001 ☞	地球温暖化	エコファミリー一家の主婦	ハイブリッド車の購入にはさまざまな優遇措置があり、お買い得感がある。しかし、車は普段は買い物程度にしか利用しておらず、今の車を長く使うのも環境にやさしいといえるのではとも思う。**車を買い替える？**	買い換える	買い換えない
Ⅰ 013 ☞	エネルギー	エコファミリー一家の主人（あるじ）	太陽光発電には以前から関心があったが、取り付け費用を回収するのに20年以上はかかるといわれていた。しかし、最近は補助も充実し、売電価格も2倍になり、次年度から全量買い取りの動きもある。 この機会に、**太陽光発電を取り付ける？**	取り付ける	とりつけない
【Ⅱ　自然共生社会】					
Ⅱ 001 ☞	生物多様性	悩める地域住民	家の近くの森にある小さな流れ。昔は夏になるとホタルが飛び交っていたが、今は全く姿を見かけない。地域の集まりで、地域の活性化や住民の交流・子どもの環境教育にもなるので、この小川にホタルを移植してはどうだろうという話が出た。**移植に賛成する？**	移植に賛成	移植に反対
Ⅱ 009 ☞	自然保護	自然保護に関心のある人	近所のため池には、冬になるとカモがやってくる。鳥にとって冬越しというのは大変で、餌が確保できないために命を落とす個体が多いそうだ。冬の間だけ鳥の餌を岸辺に撒いているが、『野鳥にエサをやるのは自然のバランスを崩す』と言われた。**それでもエサをやり続ける？**	やり続ける	やめる

【Ⅲ　循環型社会】

Ⅲ 001 ☞	ごみ・廃棄物	困っている亭主	会社を退職して十数年。いつか着るだろうとしまった背広がたくさんある。でも型が古く誰もいらないと言う。リサイクルマーケット関係者とのつながりもなく、フリーマーケットをする体力もない。このまま置いておくと場所をとるし、いっそのこと手っ取り早く**燃えるごみに出す？**	出す	出さない
Ⅲ 027 ☞	食	うっかり主婦	冷蔵庫を開けたら、安売りをしていたので買っておいた未開封のかまぼこがあった。賞味期限をみると1週間過ぎている。このかまぼこを**調理に使う？**	使う	使わない

環境配慮と防災の関係を考える　by 杉浦淳吉

防災行動の達人（ソナエーター）になるには，過去の被災経験や専門家からの情報をもとに，各自で対策をとることが必要と考えられます。しかし，実際には防災対策が多くの市民にとって確実に実行されているのでしょうか。いつやってくるかも分からない災害に個人的に負担のかかる防災対策は後回しになりがちなのではないでしょうか。ここでは，以上の特徴と類似した性質をもつ環境行動との対比で考えてみたいと思います。

環境社会心理学の分野では，図1に示されるような環境配慮行動の規定因モデル(広瀬，1994)が提唱され，このモデルに関する実証的研究が積み重ねられています。「環境にやさしい行動をしよう」と私たちは頭で考えます。これが「目標意図」です（図の中では「環境配慮的態度」として示されています）。しかし，目標はあくまで「目標」であって，行動につながらない(態度と行動の不一致といいます)事態が生じます。私たちはこのことを日常経験からも理解することができるでしょう。

環境問題の深刻化や責任の所在などは，マスコミでも繰り返し報じられています。こうした報道によるアピールをこのモデルで考えると，第1に環境汚染の深刻さと発生の確からしさに関する環境リスク認知，第2に環境汚染の責任の所在に関する責任帰属認知，第3に対処すれば環境問題は解決するだろうという対処有効性認知，という3つの環境認知の側面に影響し，目標意図を高めることに貢献します。ところが，目標意図は行動につながりにくいので，行動に直接つながる要因を考えなくてはいけません。このモデルでは，第1に実行に関する知識・技能や社会的機会の有無といった実行可能性に関する評価，第2に行動実行の「便益・費用に関する評価，第3に行動が準拠集団の規範や期待に沿っているか否かの社会規範に関する評価が，行動に直接影響を与える要因とされます。環境配慮行動を普及させるには，目標意図を高めることも大事ですが，「自分も簡単にできる」，「行動することは損にならない」，「大勢の人がやっている」といった具体的な行動にかかわる評価(個人にとっての感覚)が大事になってきます。防災にも通じるところがあるのではないでしょうか。

では，目標意図から行動を高める方法はないのでしょうか。社会心理学の研究によれば，その方法の１つとして，役割遂行(ロールプレイ)の手法の有効性が確認されています。私たちは，人に何かを話すことにより，自分自身がそのことを信じるようになります。Horsleyの実験(Horsley, 1977)では，大学の演習として環境行動を知人に説得するという課題が出されたところ，説得した本人が環境行動を実行するようになったという結果が得られています。

この発想をもとに開発されたのが説得納得ゲーム(杉浦, 2003)です。通常10～100名程度の参加者により行われるこのゲームでは，プレーヤはまず環境配慮のアイディア(例えば「使い捨て商品を買わない」)を考え，説得カードに記入します。次に，プレーヤが約半分ずつに分かれ，一方は説得役，もう一方は反論・納得役になります。説得役は，反論・納得役のプレーヤのところに行き，カードに書かれたアイディアを実行するよう説得します。反論・納得役は，可能な限りの反論が求められますが，納得できたら相手の説得カードに実行を約束する署名をします。納得できなければ×をサインします。一定時間で，説得役と反論・納得役は交代します。制限時間内になるべくたくさんの人から署名を集めた人が勝ちです。

このゲームを考案した時は，Horsleyの実験効果を体験するねらいがありましたが，実践を重ねるうちに，環境行動のメリット・デメリットについての理解を深めることができるツールであることが分かってきました。この点でクロスロードとも共通点があります。一回しか使わない「使い捨て商品」は，環境にはよくないかもしれませが，ソナエーターとしては不可欠なものもあるでしょう。

説得納得ゲームは，環境分野以外にも，消費者教育やコミュニケーション教育，迷惑行為防止や防犯など活用が進んでいますし，この7月には，大阪教育大学で防災教育のツールとして説得納得ゲームが採用されました。阪神淡路大震災を経験している学生が多いためか，説得のアイディアとしては，消火器設置・耐震診断・備蓄に関するアイディアが多かったようです。

「大事だと思いながらも，なかなか対策が進まない」という点で，防災と環境に共通点も見受けられます。クロスロードで悩めた防災対策について，知人の方々に説得して反応を伺ってみてはどうでしょうか。ソナエーターとして防災について考え，さらに行動していくためのヒントがさらに発見できるかもしれません。

(愛知教育大学　杉浦　淳吉　先生)

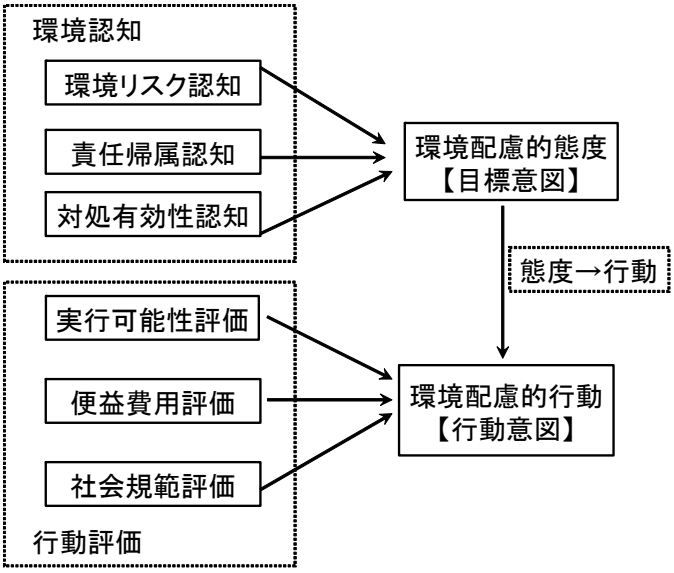
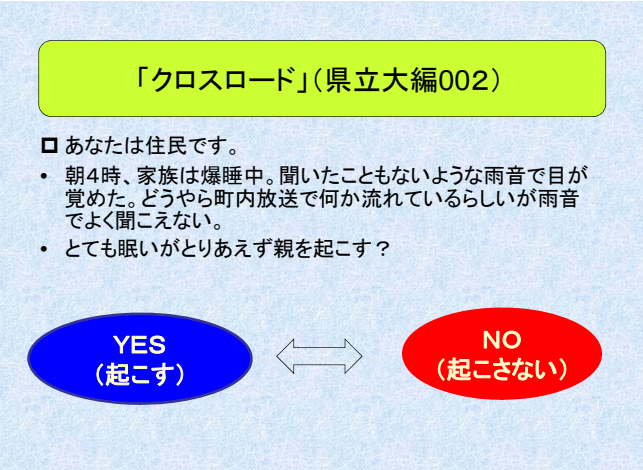
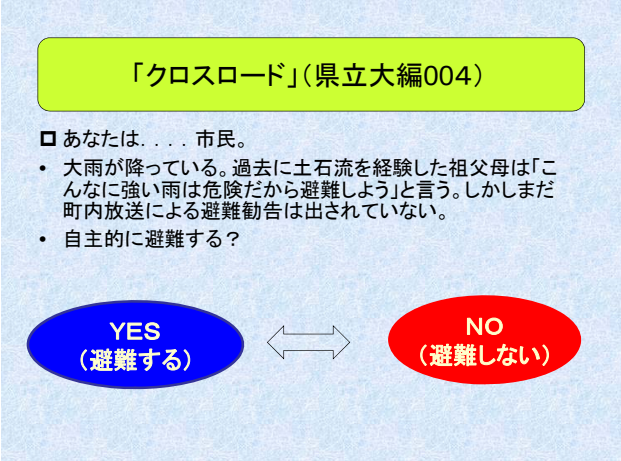


図1　環境配慮行動の規定因モデル(広瀬，1994より抜粋)

クロスロード土砂災害編も！

クロスロードのつどい in 神戸でも火山学がご専門の伊藤先生の指導の下、岩手県立大学の学生さんから発表されましたが、クロスロード土砂災害編も作成されています。ここでは当日発表された中から2問をご紹介しましょう。





実施の様子(釜石市の中学校）は、岩手県のサイト「岩手希望のちから」でもご覧になれます。
「土砂災害から地域を守れ！」http://www.iwatesan.com/chikara/133-chikara11.html

こんなところに心理学(29)：心の予防接種

心理学には他の分野から用語や説明を借りている理論が少なくありません。今日は、その中でも医学に名前を借りている理論(接種理論)をご紹介しましょう。

これは、説得の時に予め弱い反論をきかせておくと、後に反論にであっても、容易には説得されにくくなるという現象を説明した理論です。予めきかせておく弱い反論が、あたかも予防接種のような働きをすることから名づけられた理論です。

もともとこの理論は、「自明の理」という、みんなが「当たり前だ」と思っている信念についての研究から始まりました。たとえば、「毎食後歯を磨いた方がよい」というのは、誰もが「正しい」と、信じて疑わないですよね。これのような信念を「自明の理」(証明するまでもない)と言います。自明の理と思われていることは、反論をきいた経験がほとんどないので、まれに反論にあうすると、説得されやすいことがわかっています。

最近の例で言うと、リサイクルするのは環境によい、と自明の理のように思っていたところに、「リサイクルする方がかえって環境負荷を高める」という本が出版されて、非常に話題になったことがありましたね。このように、みんなが当たり前、とか、正しい、と思っていることほど、実は意見が変わりやすいものなのです。

防災で言えば、「耐震補強するべき」や「地震保険には入っておいた方がよい」というのは、自明の理に近いといえるかもしれません。ということは、ちょっとした反論で、この信念は容易に揺らいでしまう可能性があるということなのです。

そんなことがないように、容易に説得されないようにするためには、心理的な予防接種が有効なのです。具体的には、信念が変わるほどの強い反論ではなく、弱めの反論をきかせておくのです。先に挙げた環境問題の例で言うと、「リサイクルする方が環境負荷が高くなるといわれる方があります」というように、反論があることを予め知らせておくとか、「環境負荷が高くなる場合もありますが、それはこういう処理をした場合のことです・・・・」というように、反論の反論(反駁、といいます)をきかせておく、という2つの方法が代表的です。

反論の反論をしておいた方が、より効果的なように思われますが、研究の結果は必ずしもそうではなくて、上の例のように、将来反論が来ることを単に予告するだけでも、説得への抵抗が強くなることがわかっています。

なぜ、そのようなことが起こるのでしょうか?色々な説明がありますが、有力なのは、「反論をきいた人が、自分自身でその議論を反芻し、反対論(反駁)を考える」というものです。ちょうど予防接種によって身体に免疫ができるように、人は心の中で考えているうちに、いわば自発的に説得に対する抵抗力をうみだすようなのです。

あまりに「正論」ばかりをきいていると、たまに出くわす反対論によって、容易に人々の気持ちが変わるかもしれません。この時、反対論が妥当なものかどうかは関係ありません。極端に言えば、荒唐無稽な反対論であっても、それが珍しいものであれば、容易に人々の態度を変化させることがありうるということなのです。

そういうことがないように、防災の啓発をする上では、正しいことを伝えるだけでなく、ちょっとした反論(たとえば、費用がかかるというような欠点も)も伝えておく方が賢明なことだといえるでしょう。

信念を持って賛成していた人が、急に反対論者になったりすることが時々ありますが、その背後にもこうしたメカニズムが働いている可能性があります。無菌状態で育てられると弱い、というような比喩が使われますよね。人の意見の変化にも同じようなことがいえそうです。

防災への信念が揺らぐことがないよう、啓発にも予防接種の観点を入れてみて下さい。